

市民生活と観光の調和・両立の推進 ～令和7年秋の取組結果～

- | | |
|------------|----------------|
| 1 取組結果概要 | (1 ~ 4 ページ) |
| 2 分野別の取組結果 | (5 ~ 17 ページ) |
| 3 地域別の取組結果 | (18 ~ 25 ページ) |
| 4 市民意識調査結果 | (26 ページ) |

各取組は、宿泊税を活用して実施しています（4ページ参照）。

I 取組結果概要

- ・取組結果概要 (2ページ)
- ・観光客の動向 (3ページ)
- ・宿泊税の活用 (4ページ)

取組結果概要

【総括】

- 秋の観光シーズンは、多くの観光客の来訪が見込まれるとともに、令和6年の観光客数が過去最高水準であったことを踏まえ、引き続き、市民生活と観光の調和・両立に向けて、観光課題対策に加えて、観光関連事業者・従事者等、観光客、市民の三者がお互いに尊重しあう関係づくりに資する取組を検討
- 関係部局による連携の下、観光の分散化や市バスの混雑対策を推進するとともに、地域・事業者と連携した観光マナー啓発・散乱ごみ対策、市民と観光客の交流の場の創出など、網羅的に取り組むことで、市民生活と観光の調和・両立に一定寄与したものと認識
- 他方、「京都観光に関する市民意識調査」では、約8割の市民が「混雑やマナー違反に迷惑している」と感じていることからも、市民生活と観光の調和・両立を目指した取組を継続・充実させる必要がある。

<観光客等の動向>

- ・ 位置情報データ（3ページ参照）では、令和6年秋と比較して日本人・外国人ともに減少。他方、市バス・地下鉄の乗降客数（11/22～11/30までの土休日、5日間の速報値）は、市バス：354,572人/日（R6比+1.4%）、地下鉄：691,808人/日（R6比+3.5%）と増加。秋の観光シーズンを含む京都市の観光客数等の統計値は、「令和7年京都総合観光調査」（令和8年度）で公表予定
- ・ 紅葉の見頃は、東山（清水寺）は11/8～12/2（R6：11/22～12/6）、嵐山は11/14～11/28（R6：11/22～12/6）など、各所において昨年度よりも早まった（京都市観光協会「紅葉だより」参照）。

【主な実績】

- ・ 府市連携の取組として、「川の京都」の魅力発信を行うとともに、府市周遊観光ツアーでは、一部で募集定員を超過（6ページ）
- ・ 東大路通渋滞緩和に向けた迂回誘導では、車線制限を実施していた昨年度と同程度の効果を確認（19ページ）。清水坂観光駐車場の完全予約制では、東大路交差点から駐車場入り口までの所要時間が更に短縮（20ページ）。観光バスの路上滞留対策では、啓発件数が前年同期比で概ね減少（五条通：▲55%等）（7ページ）
- ・ 観光特急バスの最繁忙期（11/22～30の土休日、5日間）の1日平均利用者数は、3,323人/日（R6：3,340人/日）。運行パターンの見直し（1便当たりの利用者数の平準化を確認）及び経路変更（所要時間の短縮を確認）を試行実施（8ページ）
- ・ 京都駅構内におけるコインロッカー情報等の一元化発信等により、市バス車内の大型手荷物携行者数は、D2のりばで2.9%（前年同水準）（12～13ページ）。また、京都駅では、床面案内サインの整備等により、目立った混雑の発生はなかった。（14ページ）
- ・ 地域と連携した観光マナー啓発・散乱ごみ対策を推進。ごみの散乱はほぼ見られなかった。（20、22～25ページ）
- ・ 宿泊税の使途に関する動画の配信のほか、市民と観光客が一緒に楽しめるイベントを初開催（17ページ）

【補足】観光客の動向等

3

【位置情報データ（携帯電話）を用いた分析】

前年同期の数値との比較において、一部の観光地では、増加傾向がみられたが、日本人・外国人ともに全体的に減少傾向となった（日本人：▲15%・外国人▲12%）。

○ 人数規模（区分）

◇	□	○	☆
～1,000人	～3,000人	～10,000人	10,001人～

注 対象期間における1日当たりの平均人数を4つの区分に分類（右図において、人数規模に応じて文字の大きさを変えて表記）

○ 対象期間

令和7年11月15日(土)～12月14日(日)
(令和6年11月16日(土)～12月15日(日)との比較)

○ 参照データ

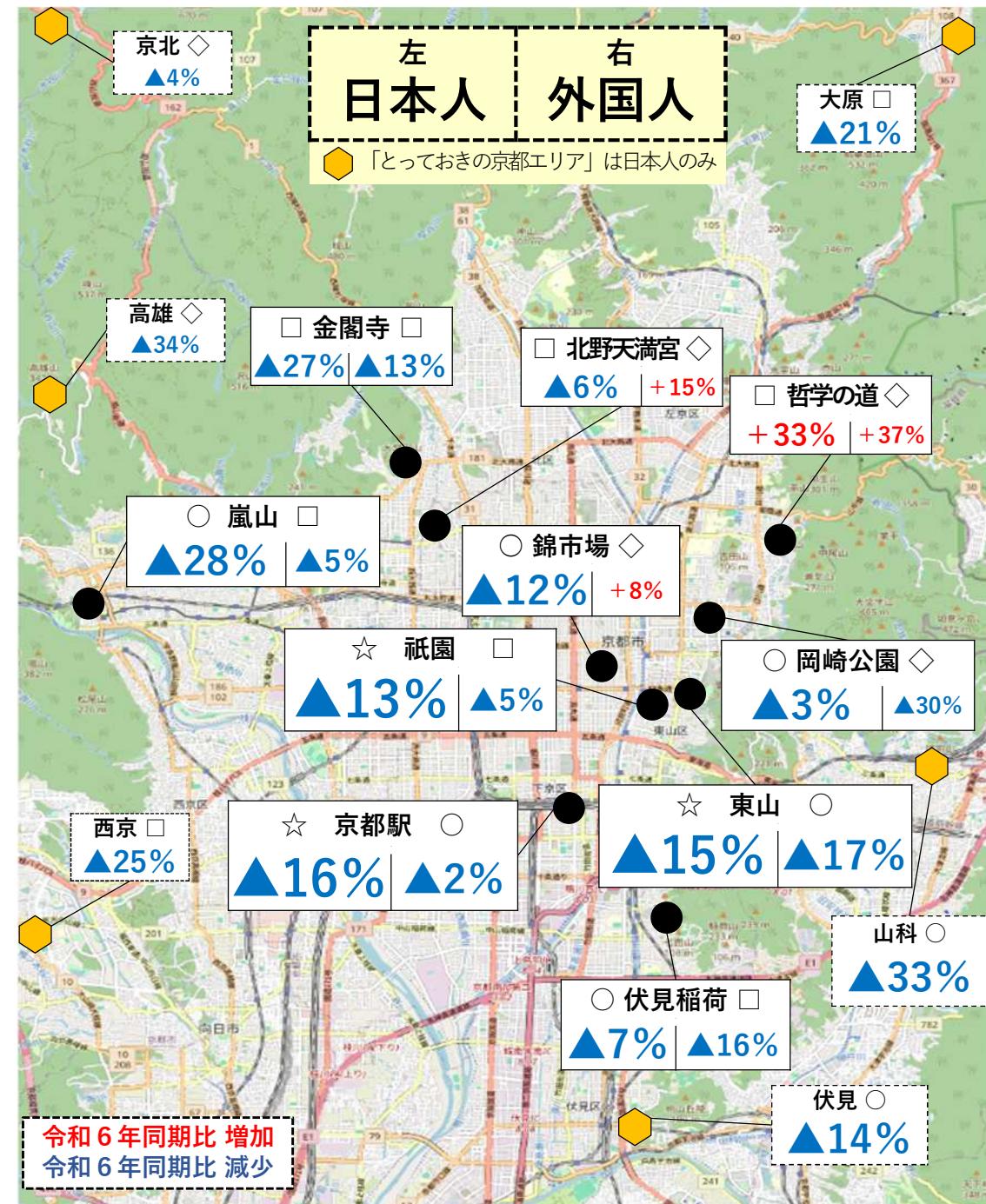
日本人：KDDI Location Analyzer（市内在住者を除く。）
外国人：クロスロケーションズ（同社のデータを基に拡大推計）

○ 留意点

- 本データは上記＜参照データ＞に基づくものであり、各地の人数規模は、実際に各地を訪れた人数とは異なる。また、日本人と外国人の参照元が異なるため、両者の合算値を用いた分析はできない。
- そのため、本データはあくまで参考情報の1つであり、本データのみをもって「京都市全体の秋の観光シーズンにおける動向」を分析できるものではない。

【地域・関係事業者からの主な声】

- 東山・祇園エリアは、通年で観光客が多い傾向にあるが、令和7年秋は中国人観光客が多く見られず、11月下旬の3連休を除いて、混雑が生じていない印象（地域団体）
- 伏見稻荷エリアは、中国の渡航自粛の影響により、中国人観光客が減少したように感じるが、混雑状況に変わりない（地域団体）。
- 全体的に、過去の同時期と比較しても日本人・外国人ともに減少しており、とりわけ11月下旬の3連休が最ピークで、それ以降肩下がりであった（京都駅の関係事業者・タクシー事業者）。
- とりわけ東山エリアにおいては、大型バスよりタクシー利用の観光客が増加しつつある（貸切バス事業者・旅行事業者）。



○宿泊税の使途について

京都市の宿泊税収入は、「国際文化観光都市としての魅力向上」と「観光の振興」に活用しており、本資料に掲載している各取組の財源にも充当。[宿泊税の使途について、市民の皆様、そして観光客（宿泊客）の皆様に御理解いただけるように、動画を作成して、配信中](#)



(動画二次元コード)



○宿泊税の見直しについて

「持続可能な観光」の実現に向けた取組の財源を確保するため、税率を負担能力に応じて一部引き上げる条例改正案が令和7年2月市会で可決。令和7年10月に総務大臣同意を得て、令和8年3月1日から税率改定予定

引上げによる税収を活用し、「多様で奥深い魅力を活かした「観光」の推進」及び「市民生活と観光の調和・両立の更なる推進」に係る施策・事業を推進する。

※ 令和7年度税収59億円（予算額）に対し、見直し後の令和8年度税収額は132億円を見込む。

宿泊料金 (1人1泊につき)	税率	
	令和8年2月まで	令和8年3月以降
6,000円未満	200円	200円
6,000円以上20,000円未満	200円	400円
20,000円以上50,000円未満	500円	1,000円
50,000円以上100,000円未満	1,000円	4,000円
100,000円以上		10,000円

2 分野別の取組結果

観光課題対策

分散化・周遊観光の推進	(6 ページ)
道路の混雑対策	(7 ページ)
市バスの混雑対策	(8 ~ 11 ページ)
手ぶら観光の推進	(12 ~ 13 ページ)
京都駅一極集中の緩和	(14 ~ 15 ページ)
観光マナー啓発・散乱ごみ対策	(16 ページ)
観光に対する共感の輪の拡大	(17 ページ)

令和7年9月26日付「令和7年 秋の観光シーズンにおける観光課題対策」に掲載した対策の内、主なものの結果について記載（一部、施策の構成を見直し）

分野別① 分散化・周遊観光の推進

課題認識

- 依然として主要な観光地に観光客が集中する傾向が見られることから、分散化に係る取組が必要
- 「まるっと京都」は価格に見合った付加価値を盛り込んだツアーが必要と推察

対策の方向性

- これまでの取組の継続に加え、更なる観光地の分散化に資するよう府内全域での周遊観光の促進を図るとともに、局所的な混雑が見られる嵐山エリア内における域内分散を促す。
- 継続した混雑情報の発信により、特定観光地への集中の緩和、観光地の分散を図る。

充実 府市連携による周遊観光「まるっと京都」の展開

「川の京都」の魅力を広く発信するため京都の川の魅力を活かしたガイドツアーを実施するとともに、「川の京都カード」を配布。また、令和6年度に引き続き、府市周遊観光ツアー造成への支援も実施

<「川の京都」ガイドツアー>
鴨川・琵琶湖疏水・保津川等をテーマとした川ごとのガイドツアーを造成・販売
・催行期間：11/14(金)～ ※ツアー内容によって異なる
・販売実績：38名（定員の約7割）

<「川の京都カード」を配布>
・開始日：11/11(火)
・配布実績：約233枚（配布予定の約5割）

<府市周遊観光ツアーの実施（12月末時点）>
・PR経費の支援：35ツアー
・参加者数：3,600名（R6：1,995名）



継続 局所的な混雑が発生している嵐山エリア内の混雑緩和

→ 嵐山地域の対策（21ページ）参照

継続

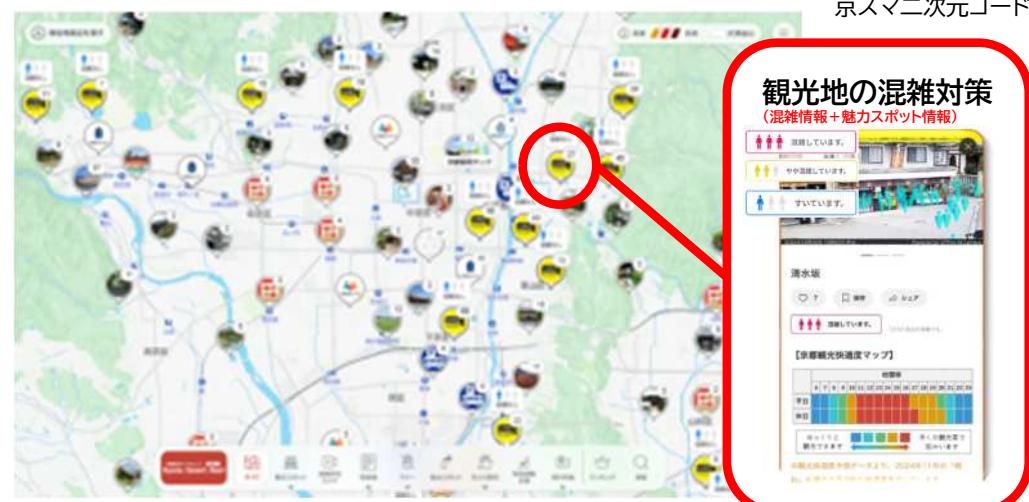
京都観光デジタルマップ「京スマ」を活用した混雑情報の発信

AI技術を活用した観光地の混雑状況や紅葉の色付き情報の発信等、京都観光に便利な情報を一元的に発信

- ・アクセス件数：約4,100件／日（前年同期比と同水準）



京スマ二次元コード



【対策の評価等】

- 「川の京都」のガイドツアーについては、全てのツアーにおいて定員の半数を超えるお客様に参加いただいたほか、「川の京都」カードについては一部の箇所では在庫枚数を全て配布するなど、京都を訪れる方に「川の京都」を知っていただくきっかけづくりができたと認識。府市周遊観光ツアー造成支援については、募集定員を超過するツアーの造成ができた他、事業者からは、ツアー造成をきっかけに、新たな顧客や施設等との繋がりが生まれた等の声もいただいており、新たなツアー造成の選択肢を広げられたと認識
- また、京スマについても、秋の観光シーズンに紅葉の色付き情報（満開・五分咲き等）を発信した結果、アクセス件数が約4,000件／日（約2,500件／年）を超えており、利用者からも御好評いただいているが、より多くの観光客等に御利用いただけるよう、引き続き情報発信を実施していく必要あり

分野別② 道路の混雑対策

課題認識

- 観光バス路上滞留対策を実施する中、関係事業者から、事前に駐車場の満空情報が確認できるシステム等を求める声を確認
- 東大路通の更なる混雑緩和に繋がる取組の必要性を認識
- 清水坂観光駐車場の完全予約制について、利用者の声や利用実態を踏まえた最適な予約時間枠の検証が必要

対策の方向性

- 観光バス駐車場の満車・空車情報を発信するとともに、併せて観光バスの路上滞留啓発をエリア拡大のうえ実施
- 東大路通の更なる混雑緩和に向け、現地啓発の強化、旅マエからの周知啓発を実施
- 清水坂観光駐車場の完全予約制における時間枠の検証

新規

京都市内観光バス駐車場の満車・空車情報の発信

京都観光デジタルマップ（京スマ）の中で、民間事業者及び神社仏閣等と連携のうえ、計29か所の観光バス駐車場の満車・空車情報を発信

- 開始日：10/21(火)
- 運用開始後の京スマの「観光バス駐車場情報」のアクセス件数は、前年同期比で約8.6倍増加
- 観光バス運転手や事業者等から、非常に便利で利用しやすい等と高評価**



(京都観光デジタルマップでの
観光バス駐車場の満空情報)

充実

観光バス路上滞留に係る現地啓発活動

昨年度に引き続き、路上滞留が散見されるエリアで現地啓発活動を実施

- 実施日：11月下旬～12月上旬の計8日間（10時～18時）
- 啓発エリア及び啓発結果（R7:14エリア、R6:7エリア）

実施エリア	啓発件数／日	前年同期比（前年同期件数）
① 御池通（堀川～川端）	16件／日	▲8% (17件／日)
② 五条通（川端～東大路）	9件／日	▲55% (21件／日)
③ 烏丸通（御池～四条）	18件／日	+10% (16件／日)
④ 知恩院	16件／日	+30% (12件／日)
⑤ 河原町通（八条～九条）・九条烏丸	14件／日	▲38% (23件／日)
⑥ 豊国神社・芸大学	6件／日	▲42% (10件／日)
⑦ 東本願寺	8件／日	▲27% (11件／日)
⑧ 紫明通	1件／日	—
⑨ 堀川通（四条～七条）	3件／日	—
⑩ 丸太町通（東大路～白川）	7件／日	—
⑪ 神宮道及び平安神宮	5件／日	—
⑫ 九条大宮	4件／日	—
⑬ 千本丸太町	5件／日	—
⑭ 伏見稻荷大社	1件／日	—



※⑧～⑭は、R7から
新たに実施

充実

東大路通渋滞緩和に向けた迂回誘導の促進

継続

清水坂観光駐車場の完全予約制

東山地域の対策
(19～20ページ) 参照

【対策の評価等】

- 啓発エリア全体的に観光バスの路上滞留の啓発件数が減少**していることから、観光バス駐車場の満空情報の発信を含め、これまでの様々な取組の効果があったものと認識
- 他方で、一部のエリア（烏丸通・知恩院周辺）では、啓発件数が前年同期比で微増していることから、引き続き、観光バス運転手はもとより、観光バス事業者や旅行事業者への啓発が必要

（東大路通渋滞緩和や清水坂観光駐車場については19～20ページ参照）

分野別③ 市バスの混雑対策 (I)

課題認識

- 市民意見募集の結果等から、市バスの混雑を懸念する声が、依然として多くあると認識
- 観光特急バスの利用者数が堅調に推移しており、継続した利用促進の必要性に加えて、移動経路の分散化に資する取組や、お客様案内の充実等、継続が必要と認識

対策の方向性

- 「観光特急バス」の更なる利用促進
- 地下鉄をはじめとした鉄道を活かした移動経路の分散
- 市バス・地下鉄の臨時増発とお客様案内の充実

「観光特急バス」の利用促進

継続 「観光特急バス」の運行

運行日：土曜・休日（お盆・年末年始含む）
EX100号系統：32便／日、EX101号系統：16便／日

<利用実績>

最繁忙期の1日平均利用者数は、**11/22(土)～30(日)の土休日5日間で、3,323人／日 (R6: 3,340人／日)** であった。

また、「ゆき」と「かえり」の利用者数の比率は、
昨年度（令和6年10月20日）は 「ゆき」73%：「かえり」27%
→ 今年度（令和7年11月23日）は 59%：41% で、かえりの利用割合が増加

新規 「観光特急バス」の運行パターンの見直し（試行実施）

11時台のEX101号系統（4便／五条坂まで）をEX100号系統（五条坂・祇園・平安神宮・銀閣寺行き）に振り替えるとともに、12時台のEX101号系統4便の運行を取り止めた。 実施日：11/22(土)～24(月・休)、29(土)、30(日)

<利用実績>

11時台の観光特急1便当たりの利用者数が平準化

（6年度：EX100号68人／便、EX101号38人／便 → 7年度：54人／便）

なお、12時台は運行回数が減少したため、1便当たりの利用者数が増加
（6年度：EX100号64人／便、EX101号29人／便 → 7年度：70人／便）

充実 「観光特急バス」の利用促進

多言語でのWEB記事掲載をはじめ、鉄道駅でのPRカード配布（今秋から新たに追加）、空港、宿泊施設等におけるリーフレットやデジタルサイネージ等の広告媒体を活用した「旅マエ・旅ナカ」での効果的なPRを継続して実施

<鉄道駅でのPRカード配布実績>

JR西日本の関西空港駅、大阪駅、新大阪駅、京都駅で、10月、11月の2か月間で24,333枚を配布



PRカード（表面）
※裏面は地下鉄・バス1日券PR

新規 EX100号系統の経路変更（試行実施）

「観光特急バス」の速達性と定時性確保に向けて、EX100号系統の往路／京都駅前→五条坂の経路を、五条坂交差点をスムーズに通過するため、EX101号系統と同経路（七条通→東山通経由）に変更
実施日：11/22(土)～24(月・休)、29(土)、30(日)



<結果>

全ての日において、今年度（七条通→東山通経由）の方が、昨年度（烏丸通→五条通経由）より所要時間が短かった。

平均所要時間 R6:19分16秒 → R7:16分54秒 (2分22秒短縮)

分野別③ 市バスの混雑対策（2）

地下鉄をはじめとした鉄道を活かした移動経路の分散

継続 市バスから地下鉄への無料振替

東山方面、金閣寺方面から京都駅に向かわれるお客様に、地下鉄への無料振替を実施

実施日：11月の土休日（計12日間）

<利用実績>

東山三条：延べ7,752人(646人／日、バス約11台分)、R6：延べ6,779人(616人／日)
金閣寺道：延べ2,628人(219人／日、バス約4台分)、R6：延べ2,356人(214人／日)

地下鉄への利用誘導により、御利用の分散を図り、混雑緩和に一定の効果があった。



無料振替 <東山三条>



無料振替 <金閣寺道>

充実 「地下鉄・バス1日券」の利用促進

多言語でのWEB記事掲載をはじめ、鉄道駅でのPRカード配布（今秋から新たに追加）、空港、宿泊施設等におけるリーフレットやデジタルサイネージ等の広告媒体を活用した「旅マエ・旅ナカ」での効果的なPRを継続して実施【再掲】



PRカード（裏面）

継続 「地下鉄・バス1日券」の臨時販売

JR東海の御協力の下、新幹線京都駅構内に臨時販売所を設置し、新幹線を降車されたお客様に対して「地下鉄・バス1日券」を販売し、地下鉄への利用誘導を図るとともに、新幹線中央改札口の混雑緩和にも一定寄与

- 実施日：11/22(土)、29(土) 8時30分～12時
- 実施場所：新幹線京都駅2階コンコース内
- 販売実績：1,586枚



新幹線京都駅での臨時販売の様子

継続 周辺部への誘客キャンペーンの実施

「市バス赤字系統の利用促進」と「地下鉄とバスを組み合わせた移動への誘導」の2つの観点の下、山科・醍醐エリア及び洛西エリアへの誘客キャンペーンを実施

- 実施期間：10月～12月
- 販売実績：644セット
(洛西編：192セット、山科・醍醐編：452セット)



キャンペーンリーフレット

市バス・地下鉄の臨時増発とお客様案内の充実等①

充実 市バスの臨時増発

実施日：11月の土休日（計12日間）

<運行実績>

臨時便	秋の観光シーズン 期間中 11/1～30 土日祝日	
	回数	利用者数
京都駅～清水寺・祇園方面 106号系統	180	17,327
東山安井※・馬町→京都駅 206号系統（区間運行便）	60	2,056
鉄道駅（阪急西院駅・JR円町駅・地下鉄北大路駅）～金閣寺 25・205号系統	20	1,714
地下鉄北大路駅～金閣寺～嵐山 109号系統	45	4,094

※新たに設定

新規 市バスのリアルタイム運行情報の発信

交通局で市バスの車内混雑度や走行位置等のリアルタイム運行情報の発信を予定しているが、これに先立って、秋の観光シーズンに、東山エリアの一部停留所を対象に試行配信を実施

お客様自身で車内混雑度を確認いただき、空いているバスや他のルートを選択することで御利用の分散化を図った。

<利用実績>

約22,500件／日のアクセス

（最多は23（日・祝）で約25,000件／日）

（参考）「ポケロケ」のアクセス件数

R6年度平均 約125,000件／日



継続 地下鉄の臨時増発

烏丸線（国際会館～竹田間）について臨時増発を実施

実施日：11月の土休日（計12日間）

<運行実績>

1日当たり12往復

10時頃から18時頃にかけて、通常概ね7分30秒間隔のところを、概ね5分～6分30秒間隔で運行した。

継続 清水道・五条坂(南行)停留所の運用見直し(試行実施)

ゴールデンウィークに引き続き、清水道（南行）停留所の運用を見直し、行先・方面別（Aのりば：京都駅方面／Dのりば：東福寺・九条通方面）に分けることで、わかりやすさの向上と停留所付近の混雑緩和を図った。

実施日：11/22(土)～24(月・休)、29(土)、30(日)

<結果>

東大路通（祇園→五条坂）のバスの走行時間は、対前年度比で重点期間5日間のうち4日間で減少した。（1分21秒/便の短縮）

また、清水道南行の北詰・南詰停留所の総停車回数が、R6：362回／日→R7：209回／日に減少し、総停車時間は対前年度比で、計1時間30分11秒短縮した。

※データは全て、13時～20時台の運行実績



分野別③ 市バスの混雑対策（4）

市バス・地下鉄の臨時増発とお客様案内の充実等②

継続 清水道南行停留所のバス待ちスペースの設置

停留所に近接する駐車場を所有する株式会社京都銀行及び管理・運営する銀泉株式会社に御提供いただき、バス待ちスペースとして運用し、バスをお待ちのお客様や歩行者で混雑する停留所のバス待ち環境と歩道の通行環境を改善

実施日：11/22(土)～24(月・休)、29(土)、30(日)

<結果>

駐車場内でのバス待ち人数は、最大200人程度に上った。

→歩道に1列に並ばれた場合、列の長さは約50m程度となる。

11/23(日・祝) 16:30頃



新規 京都駅前バスのりば（Dのりば）のバス待ち環境の改善

京都駅前バスターミナルの東山方面バスのりば付近の「地下鉄・バス1日券」券売機について、多客時にはバスの待ち列と乗車券を購入される方が錯綜するため、移設によりバスのりばの混雑解消を図った。

移設完了：10月上旬



充実 観光地最寄りのバス停留所における案内員の配置

京都駅前ほか、観光地最寄りの停留所等において、バス待ち旅客の案内・誘導を実施し、停留所付近の環境改善や乗降時間の短縮によるスムーズな運行に取り組んだ。※配置箇所：清水道・五条坂・祇園・東山三条・金閣寺道・平安神宮等

なお、活動の一環として、京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”が京都駅前バスのりばや、主要観光地の最寄り停留所等において案内活動を実施し、快適に京都観光を楽しんでいただけるよう、手ぶら観光や鉄道とバスを組合せた移動を多言語で案内し、分散化と混雑緩和に取り組んだ。

秋の観光シーズンは平日も含め京都駅前では全日、清水道など東山方面でも大幅に活動の充実を図った。

実施日：11月全日（京都駅前）

11月の土休日とその前後の日、11/21(金)～30(日)の全日(東山方面)



清水道停留所での案内・誘導



祇園停留所での京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”による案内・誘導

【対策の評価等】

- 観光特急バスの利用促進、運行パターン・経路の見直しや、市バス・地下鉄の臨時増発、清水道・五条坂（南行）停留所の運用見直し、“おもてなしコンシェルジュ”による御案内、市バスから地下鉄への無料振替等の**対策を着実に実施することで、京都駅バスターミナルの各のりばにおいて、最繁忙期を含めて大きな混雑は見られなかったことなどから、市バスの混雑緩和に一定寄与**したものと認識
- 他方、市バスの一部の路線・時間帯においては、市民の皆様にスムーズに御利用いただけない事態が生じている状況を踏まえ、引き続き、市バスの混雑対策を推進する必要があるものと認識

- 市民意見募集の結果等から、「市バス車内の混雑」を懸念する声が多くあり、大型手荷物の携行者数調査でも、市バス車内への持ち込みを確認
- また、関連事業者からは、京都駅構内のコインロッカーや窓口の案内情報の不足、窓口での手続きの負担、バゲージロスへの不安の声も確認

対策の 方向性

- 京都駅のコインロッカーの満空情報や手ぶら観光サービス窓口への案内誘導の強化、窓口負担の軽減、利用者の利便性向上
- バゲージロスに対する不安軽減
- 大型手荷物を携行する観光客数の実態把握

新規 京都駅構内におけるコインロッカー情報等の一元化発信

京都駅構内のコインロッカーの位置・満空情報や手荷物の配送・一時預かりサービス窓口をはじめ、市バス乗り場や店舗情報等をオールインワンで発信するデジタルプラットフォーム「京都駅デジタルマップ～Kyoto Station Smart Navi～（通称「駅スマ」）」を新たに導入

7言語（日・英・中（繁・簡）・韓・仏・西）で発信しており、アプリのインストール・登録不要

- 開始日：9/26(金)
- アクセス件数：秋の観光シーズンは約2,000件／日程度で推移し、**11月下旬3連休では約3,000件／日に増加**
- 駅スマの**YouTube動画については、開始1箇月で約12万回**再生されるなど、順調に推移
- 利用者の利用満足度が約8割**であり、利用者や事業者からの評価も高い

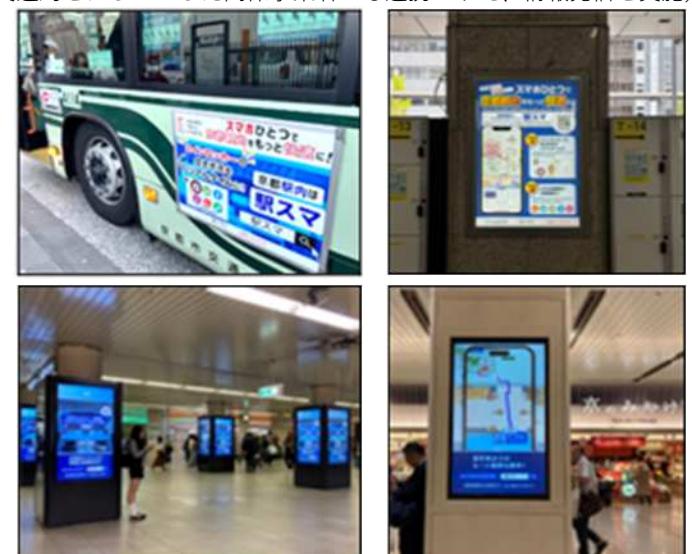


(駅スマ二次元コード)

(駅スマのYouTube動画)



(交通局をはじめとした関係事業者とも連携のうえ、情報発信を実施)



充実 民間事業者の手ぶら観光サービスの事前予約システム導入

京スマ及び駅スマの中で、手ぶら観光サービスを運営する民間事業者（計15か所）と連携のうえ、手荷物の一時預かりサービス及び宿泊施設等への当日配送サービスに係る事前予約等を新たに開始

- ・開始日：10/21(火)
- ・右肩上がりで事前予約利用者が増加していることを各事業者から確認
- ・事前予約の利用により、利用者から、窓口での負担が少なく利用しやすいことに加え、クレジットカードによる決済が便利等の声あり

- ①対象窓口確認 ②利用サービス選択 ③予約者情報入力 ④事前予約完了



新規 手ぶら観光サービスが安心安全であることの情報発信

観光客の手ぶら観光サービスに対する不安解消等を目的に、新たにサービスが安心安全であることの動画（計4言語）を制作・発信
・開始日：11/27(木)



【対策の評価等】

- 駅スマについては、アクセス状況やYouTubeの再生回数等の結果を踏まえると、一定の認知度を獲得でき、また、利用者の利用満足度が高い状況にあるが、利用者の声等を踏まえて、更に内容充実を図ることが必要であるものと認識
- 臨時手荷物配送・預かり所については、11月下旬の3連休では過去最高水準の利用者数に達することもあったが、1日当たりの利用実績が昨年同期比で減少しているため、引き続き、より多くの観光客等に御利用いただけるよう情報発信等に取り組んでいくことも必要
- また、市バス車内の大型手荷物携行者数調査においては、京都駅D2のりばが2.9%（前年同期：2.5%）と多くは見られていないことを確認しているが、B2のりばが7.0%であったため、引き続き、駅スマの情報発信や事前予約の利用促進、臨時手荷物窓口の設置をはじめとした受入環境の整備はもとより、市バス車内に大型手荷物を持ち込ませないよう、粘り強く周知していくことが必要

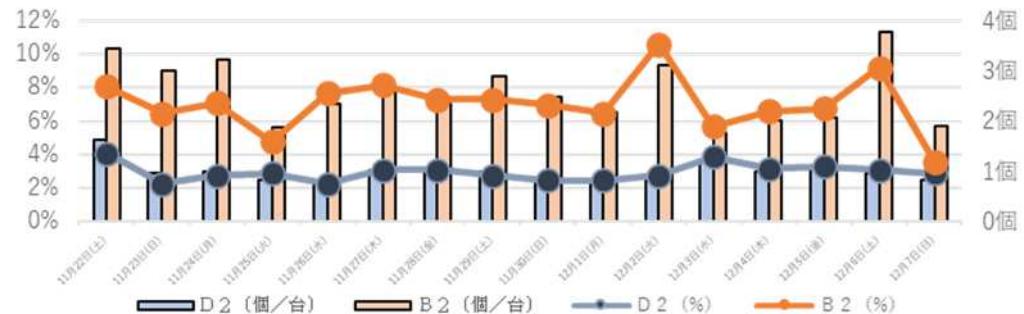
新規 大型手荷物を携行する観光客数等の調査

市バス車内に大型手荷物を携行する観光客数等の実態把握を目的に、京都駅B2・D2市バスのりばにカメラを新設のうえ、情報取得・分析

- ・分析期間：11/22(土)～12/7(日)

- ・主な取組結果

（参考）株式会社オプティムと連携のうえ、検出技術を構築



- ・D2のりばが2.9%、B2のりばが7.0%と、B2が上回る結果
- ・全体的に多くは見られていないが、引き続き実態分析を行う必要あり
- ・京都駅事業者からは、日本人の携行者も散見されるとの声あり

継続 臨時手荷物配送・預かり所の設置・運営

京都駅（京都駅ビル駅前広場）において、臨時手荷物配送・預かり所を設置のうえ、手荷物の宿泊施設への当日配送及び一時預かりサービスを実施

- ・実施時期：11/23(日)、24(月・休)、29(土)、30(日)、12/6(土)、7(日)（計7日間）
- ・当日配送サービス：26個／日（R6秋：44個／日）
一時預かりサービス：286個／日（R6秋：399個／日）

課題認識

- 「観光客が京都駅に一極集中する」こと、さらに「京都駅を発着する一部のバス路線に観光客が過度に集中する」ことが、公共交通における観光課題の一つと認識
- また、京都駅は多くの利用者による混雑がみられることから、スムーズな乗継ぎ、乗換えの促進により、混雑の緩和が必要

対策の方向性

- 京都駅におけるスムーズな乗継ぎ、乗換えの促進
- サブゲート（周辺駅）への分散化等を促すため、観光客の「日常生活・出発地」、「車内・経路」、「目的地直前」という3つの段階に応じた情報発信等

新規

京都駅案内表示の充実

JR西日本及び京都駅ビル開発株式会社と連携し、新幹線、バス、タクシー（烏丸口）、地下鉄のりばへの床面案内サインを整備

- 設置日：9/25(木)
- 設置箇所：京都駅中央口・西口改札出口、改札内
- 表示内容：新幹線、バス、タクシー（烏丸口）、地下鉄のりばへの案内
- 臨時交通案内所等において実施したアンケートにおいて、床面案内表示を見かけた方のうち、**84%の方が、「分かりやすい」、「まあまあ分かりやすい」と回答**



充実

デジタル広告による情報発信の強化

- 配信媒体：Facebook、Instagram、Weibo
- 配信先：日、米、英、豪、中、台湾、香港
- 配信期間：11/1(土)～30(日)
- 配信内容：サブゲート利用を促す情報発信（以下参照）
- 実績：表示回数 5,156,841回（内クリック数 30,352回）



継続

臨時交通案内所を核とした案内・誘導

京都駅ビル駅前広場（中央改札口前）に日本語・英語・中国語・韓国語に対応できる窓口を設置し、案内・誘導を実施するとともに、誘導スタッフ及び巡回スタッフを配置

- 実施時期：11/22(土)～24(月・休)、29(土)、30(日)、12/6(土)、7(日)（計7日間）
- 案内誘導実績：8,285人（約1,180人／日） R6秋：約850人／日



右）同案内所と連動して実施した臨時手荷物配達・預かり所（13ページ参照）



分野別⑤ 京都駅一極集中の緩和（2）

充実

関西圏における京都駅を経由しない入洛ルート等の情報発信の強化

①関西の鉄道事業者と連携した情報発信

- 実施時期：9月中旬～
- 連携鉄道事業者数：11社局
- 協力駅数：150駅以上
- 新たにチラシを作成（英・簡・韓）

②関西国際空港、難波観光案内所及び観光交流プロモーション拠点「Pivot BASE」における情報発信（9/1(月)～11/30(日)）

③大阪府内宿泊施設における情報発信

- 宿泊者へのチラシ配布（9/1(月)～）
- 大阪観光コンシェルジュへの記事掲載（600施設）
- 「OSAKA MAP-大阪観光コンシェルジュ-」への記事掲載（7月～）（約80,000部）
- 実績：チラシ配布部数 約92,600部（①～③合計）



新規 京都駅タクシー乗り場へのタクシー運賃目安の掲示（実証事業）

京都府タクシー協会の実証事業と連携して情報発信

- 同協会のHPに「運賃検索システム」を構築
- 京都駅タクシー乗り場（北口・八条口）に「主要観光地等へのタクシー運賃表」を掲示
- 開始日：①11/29(土) ②12/26(金)
- 「京都観光Navi」でも「運賃検索システム」を御案内



【対策の評価等】

- 11/23(日・祝)の昼前後等には、市バスD2のりば（清水寺・祇園方面）及び八条口タクシーのりばで最大15分程度の待ち時間が発生したが、それ以外の日・時間帯では、駅全体、バスのりば、タクシーのりばにおいて目立った混雑はみられなかった。
- 新たに設置した京都駅案内表示や京都駅一極集中の緩和に向けた情報発信、臨時交通案内所を核とした案内・誘導に加え、**観光特急バス等の運行等の相乗効果等により、京都駅では目立った混雑の発生はなかった**ものと認識

継続

鉄道事業者と連携した情報発信

JR西日本・JR東海と連携した情報発信

<日常生活・出発地>

- 新幹線駅（東京、品川、新横浜、京都駅）改札上モニター多言語発信（11月中）
- JR西日本列車運行情報 公式Xによる発信（11/21(金)）

<車内・経路>

- 電車内中吊り広告を掲出（10月下旬～）
- 新幹線車内テロップ（10/29(水)～12/1(月)）
- 東海道本線・湖西線、特急はるか車内放送による発信（11/1(土)～12/7(日)の土休日ダイヤ）等

<目的地直前>

- JR京都駅における南北自由通路北出口柱（11/1(土)～）、新幹線京都駅コンコース内デジタルサイネージ等による情報発信



(中吊り広告)



(南北自由通路北出口柱)

継続

京都駅タクシー乗り場における利用者の滞留対策

分野別⑥ 観光マナー啓発・散乱ごみ対策

課題認識

- 京都観光に関する市民意識調査等の結果において、「観光客のマナー問題」を懸念する声が依然として多い。
- 散乱ごみの問題については、主要な観光地を中心に、食べ歩き等に伴うポイ捨てが見られるため、引き続き、地域ごとの実情に応じた対策を講じていく必要がある。

対策の方向性

- 観光マナーを行政からの押し付けではなく、納得感を持って理解、行動していくために伝え方を工夫して実施
- 散乱ごみ対策については、今後も、各地域の住民等との対話を重ねながら、地域・事業者との3者連携による対策を推進

充実 旅マエから旅ナカまでのマナー啓発

<旅マエ>

日本政府観光局（JNTO）と連携した現地旅行会社を対象とした周知（白タク啓発や竹を傷つける行為に対する注意喚起も併せて実施）

<旅ナカ（主なもの）>

- セブン銀行ATM画面での啓発（11/1(土)～12/20(土)）
- 京都市広報版を活用した啓発（11/16(日)～30(日)）
- 事業者や通訳案内士所属団体を通じたツアーガイド等への周知
- 講談社の漫画キャラクターを活用した周知啓発（京都駅コトチカ広場壁面11/2(日)～約2か月間のほか、デジタルサイネージ掲出）



（京都市広報版）



（講談社の漫画キャラクターを活用した周知啓発）

新規 「ツーリストシップ」啓発イベント「旅先クイズ会」の開催

一般社団法人ツーリストシップ、嵯峨美術大学と連携し、市バスへの大型手荷物持込み抑制をメインテーマとしたオリジナル「旅先クイズ会」を実施（臨時交通案内所（14ページ参照）内で実施）

- 実施日：11/23(日・祝)、24(月・休)
- 参加者数：211人。「手ぶら観光」のメリットや臨時手荷物配送・預かり所等の情報を掲載した「ツーリストシップカード」を配布（6,285枚）



（旅先クイズ会の様子）

充実 観光客による「京都観光モラル」宣言普及促進事業

地域に配慮した行動を実践した方にポイントを進呈し、ポイント数に応じて景品抽選

- 宣言者数：2,345人（日本人：1,899人、外国人：446人）
- 協力店舗数：96店舗【1月末時点】

継続 散乱ごみ対策

嵐山地域の対策（22ページ）参照
祇園地域の対策（23ページ）参照

【対策の評価等】

- 令和7年「京都観光に関する市民意識調査」の結果、観光客のマナー違反について、約3割の方が1年前に比べて改善又は緩和している一方で、「マナー違反に迷惑している」割合は56.3%、「観光マナーを周知する取組」を実施してほしいという回答が76.0%であることから、引き続き、粘り強く取り組む必要があるものと認識

（散乱ごみ対策については、嵐山地域の対策（22ページ）、祇園地域の対策（23ページ）を参照）

分野別⑦ 観光に対する共感の輪の拡大

課題認識

- 「持続可能な観光」の基盤として、観光関連事業者・従事者等、観光客、市民の三者が、お互いに尊重しあい、京都の魅力を大切にする気持ちを共に育んでいく関係づくりを促進する必要がある。
- 多くの市民が観光の重要性を認識している一方、宿泊税の使途などの観光がもたらす具体的な効果が市民に十分に伝わっていない。

対策の方向性

- 観光の意義や効果に関して、市民向けに分かりやすい情報発信を継続して実施。特に、宿泊税に関しては、宿泊税の見直しも踏まえ、情報発信を強化
- 観光関連事業者・従事者等による「京都観光モラル」に沿った取組を積極的に推進

継続 「観光効果の見える化・観光への市民共感」促進事業



暮らしと観光をつなぐポータルサイト
「LINK!LINK!LINK!」

アクセス数：235,877件（R7.12末時点）
市民向けサービス提供件数：89件

<市民と観光客と一緒に楽しめるイベント（初開催）>

- マンガ交流イベント
実施日：11/28(金)～30(日)
参加者数：218人（うち市民89人）



- ランニング交流イベント
実施日：12/6(土)
参加者数：37人（うち市民27人）



継続 市民生活と調和した持続可能な観光促進に向けた海外プロモーション強化事業

- 情報発信拠点：ニューヨーク、ロサンゼルス、ロンドン、パリ、シドニー、台北、上海
- 海外インフルエンサー：4名（豪・仏・中・韓）
- 主な内容：とっておきの京都エリアの魅力、手ぶら観光、地下鉄・バス一日券の紹介等
- 動画閲覧数：多いもので40万回以上の再生（12月下旬時点）



新規 宿泊税の使途に関する情報発信

宿泊税の活用（4ページ）参照

継続 観光事業者による「京都観光モラル」普及促進事業及び優良事業者表彰

【対策の評価等】

- 「LINK!LINK!LINK!」の閲覧数や市民向けサービス提供件数が着実に伸びており、サイトの認知が広がっている。また、初開催となった市民と観光客と一緒に楽しめるイベントでは、参加者から「同じものを好きになるということは、人と人との距離を縮めてくれる」（マンガ交流イベント）という声があるなど、**市民と観光客の交流が生まれ、市民の観光に対する共感の輪の拡大**につながった。
- 宿泊税の使途に関する情報発信では、**「宿泊税の使いみち」の動画再生回数が着実に伸びており**、市民の皆様に観光の効果を知っていただく機会の増加に寄与している。

3 地域別の取組結果

- ・**東山地域** (19~20ページ)
- ・**嵐山地域** (21~22ページ)
- ・**祇園地域** (23ページ)
- ・**伏見稻荷周辺** (24~25ページ)

プロジェクトチームでは、部会を設置し、上記4地域に京都駅周辺を加えた5地域の対策を検討。京都駅周辺の対策については、以下を参照

- ・「市バスの混雑対策」 (8~11ページ)
- ・「手ぶら観光の推進」 (12~13ページ)
- ・「京都駅一極集中の緩和」 (14~15ページ)

課題 認識

- ・秋の観光ピークでは、東大路通南行（四条～五条間）で交通渋滞が発生するとともに、五条坂においては、清水坂観光駐車場を利用する観光バス等の車両による混雑が懸念される。
 - ・また、五条通での観光バスの路上滞留や、東大路通を走行する市バスの混雑、二年坂や産寧坂を中心に観光客が集中することにより、交差点付近等での車両との接触事故も懸念される。

対策の 方向性

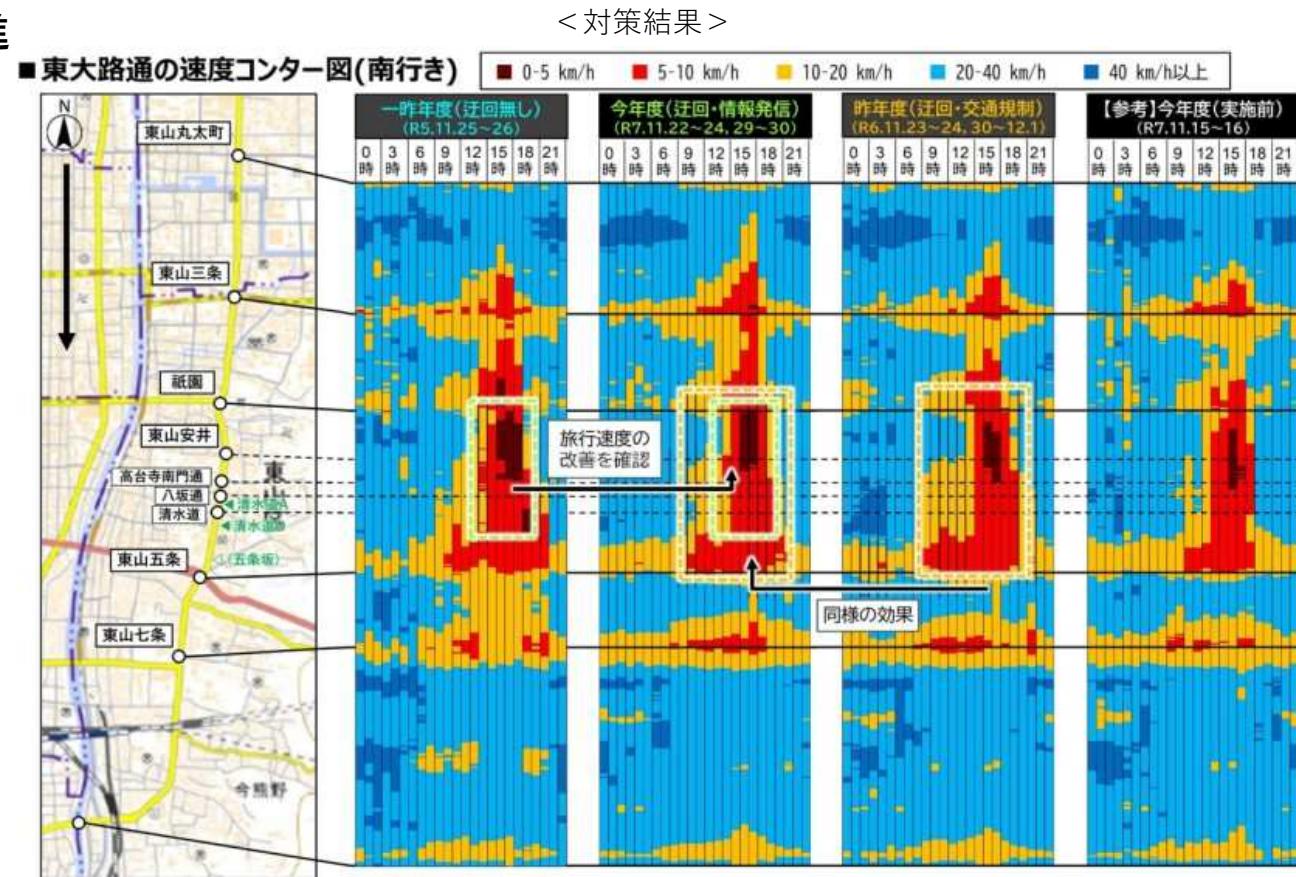
- ・東大路通の渋滞緩和に向け、東大路通への車両の流入抑制に向けた取組を充実
 - ・五条坂の混雑緩和に向け、清水坂観光駐車場の収容容量に応じた完全予約制の継続実施による五条坂への流入量の適正化、地域と連携した交通混雑対策を実施

充実 東大路通渋滞緩和に向けた迂回誘導の促進

- ・実施時期：11/22(土)～30(日)の土日祝（計5日間）
 - ・現地での情報発信
横断幕：9か所、プラカード：25か所／日
広報車：3台（1台は京都国道事務所と連携）
電子表示板による情報発信：新設2基、既設2基を更新
 - ・その他、SNSを活用した情報発信も実施

継続 東山地域交通対策の実施

- ・実施時期：11/22(土)～30(日)の土日祝（計5日間）
 - ・東山五条交差点や五条坂等に交通誘導員を配置（18人/日）



※本資料で用いた数値・図等は、国土交通省京都国道事務所及び京都府警の協力のもと、同事務所にて分析検証された結果に典拠するもの。

- 一昨年度（堀川通への迂回誘導無し）と比較し、今年度についても昨年度と同様、**旅行速度の改善を確認**



「市バスの混雑対策」については、分野別取組（8～11ページ）を参照

継続 清水坂観光駐車場の完全予約制

- 実施時期：10/8(水)～12/10(水)
- 予約枠：2時間枠(110台/日)、3時間枠(105台/日)、4時間枠(5台/日)
⇒結果、3時間枠予約の64%、4時間枠予約の50%が2時間以内の利用

<東大路交差点から駐車場入り口までの所要時間>

時期	東行き／上り (R6秋(対策前)比)	西行き／下り (R6秋(対策前)比)
R7秋 (10/8～12/10のうち 10日間(火、水、木))	2分45秒 (△60%)	5分52秒 (△70%)
R7春 (3/23～6/27のうち 14日間(水、木、金))	2分46秒 (△60%)	8分09秒 (△58%)
R6秋 (10/10～12/10のうち 12日間(水、木、金))	3分03秒 (△56%)	11分39秒 (△40%)
R6秋 (対策前)	6分56秒	19分33秒

大幅な短縮

<無断キャンセル、予約なしの来場件数（1日平均）>

時期	無断キャンセル	予約なしの来場
R7秋	18台/日	1.6台/日
R7春	30台/日	2.7台/日
R6秋	38台/日	2.5台/日

【対策の評価等】

- 特に顕著な混雑が懸念された東山地域、とりわけ東大路通南行の旅行速度について、令和6年秋に実施した車線の利用制限時と同様に改善できていることを確認しております、一時的な混雑が見られたものの、顕著な渋滞は見られなかった。
- 清水坂観光駐車場の完全予約制については、昨年と比べて東大路交差点から観光バス駐車場までの到達時間が減少しており、五条坂の混雑緩和に寄与しているものと認識。他方、修学旅行の予約が取れないことがあった点や、無断キャンセルが発生している点も確認しております、対策が必要（⇒令和8年春に制度見直し）
- 地域と連携した交通誘導員の配置により、交通事故や交通渋滞の未然防止に寄与しているものと認識。また、行政のみならず、地域、事業者と連携した取組により東山エリア全体の混雑緩和に寄与しているものと認識

継続 東山「観光・交通・環境」協力会議による取組

- 交通誘導員の配置（10/25(土)～12/7(日)のうち25日間）
- 観光客受け入れ支援（学生ボランティアや地域団体と協力した観光案内）
- 実施時期：11/15(土)～30(日)
の土日祝（計7日間）
- 参加人数：37人



新規 地域と連携した対策

（「地域と連携した市民生活と観光の調和推進事業補助制度」の活用）

桝屋町親交会による取組として、維新の道と二年坂の交差点にマナー啓発員を配置し、車両・歩行者が滞留しないように誘導

- 開始時期：11/1(土)～
- 配置人数：1人



課題認識

- 渡月橋や長辻通等、特定の場所に観光客が集中している状況にあり、とりわけ竹林の小径入口付近のバス停では観光客と車両が集中し、顕著な混雑が生じている。
- 飲食を伴いながら周遊する観光客が多く、ごみが生じやすい地域であるため、今後も、地域・事業者・行政の3者が密に連携し、散乱ごみ対策を継続・強化していく必要がある。

継続

嵐山地域における交通対策の実施



①・②・③11/22(土)～30(日)の土日祝（5日間）

※①のうち、北行一方通行規制については、通年土日祝に加え、11/17(月)～28(金)の平日に実施（10時～17時）

対策の方向性

- 長辻通の混雑緩和に向けた交通対策の実施や、局所的な混雑が生じている嵐山エリアから嵯峨エリアへの分散化に資する取組を実施
- 多様な主体が集う座談会「嵐山ごみ課題サミット」を通じ、地域・事業者とともに散乱ごみ対策を企画・実施

継続

局所的な混雑が発生している嵐山エリア内の混雑緩和



嵯峨嵐山周遊ガイド（デジタルマップ）を活用したスタンプラリー実施

- スポット：全4か所
- 実施時期：11/1(土)～30(日)
- デジタルマップ利用者数：21,261人 (R6: 23,555人)
- スタンプラリー参加者（達成者）393人 (R6: 275人)

左) 11月のヒートマップ（利用者のGPS情報から作成。密度は赤→青の順で高い。）。**奥嵯峨エリアにも観光客が訪れており、エリア内の分散化が図られている。**

案内誘導員の配置

- スポット：主要3駅（JR嵯峨嵐山駅、嵐電嵐山駅、阪急嵐山駅）
- 配置時期：11/1(土)～30(日)の土日祝
- チラシ配布枚数：42,010枚

新規

野々宮（北行）バス停の臨時移設（試験実施）

嵐山通長辻通りの安全対策及び混雑対策のため、野々宮（北行）バス停の約100メートル南への臨時移設を実施した。

・実施時期：11/8(土)～30(日)



充実

地域と連携した対策（嵐山商店街・嵐山保勝会・嵯峨自治会連合会）（「地域と連携した市民生活と観光の調和推進事業補助制度」の活用）

「食べられるスプーン」を活用したごみ減量の取組

- ・導入数：3店舗
- ・配布数：約6,600本



串を捨てる専用ごみ容器の試験設置

- ・設置数：4台（長辻通3台、竹林の小径1台）



店舗でのごみ回収に協力した方へ記念品をお渡しする「ハートバック制度」

- ・15店舗で導入（R6比：+5店舗）



ボランティア団体による外国人観光客等へのマナー啓発

- ・実施時期：11/29(土)



毎日決まった時間に店先を一斉に清掃する「クリーンタイム」の実施

- ・実施時期：11月の平日
- ・21店舗（R6比：+1店舗）で18回実施



シャトルタクシーの運行

- ・実施時期：11/17(月)～28(金)の平日
- ・利用者数：約8人／日（R6：約10人／日）



【対策の評価等】

- 臨時交通規制に合わせて、シャトルタクシーの運行や、バス事業者等による交通規制に合わせた柔軟な運行等、関係機関等が連携して対応したことにより、大きな混乱やトラブルは発生しなかった。
- 嵐山周遊ガイドについては、利用者が前年比で微減となったものの、スタンプラリー参加者は増加しており、また、嵐山周遊ガイドを見たことにより奥嵯峨を訪れる方もおられたことから、嵐山エリア内の混雑緩和に資する取組となった。
- 「嵐山ごみ課題サミット」において議論を重ねて実現した多様な散乱ごみ対策により、ごみのポイ捨てはほぼ見られず、地域からも「観光客が特に多い11月でもごみが落ちていなかった。」「地域の皆で対策した甲斐があった。」といった声を聞いている。

課題認識

- 洗練された町並みを求めて観光客が集中しており、それに伴い観光マナーの問題（芸妓・舞妓への迷惑行為、観光客が車道にはみ出す行為、私道への立ち入り等）が生じている。
- 昼夜を問わず、多量のごみがスマートごみ箱へ投入されている。また、夜間における路上飲酒に伴うポイ捨てや、カラス被害等によって、早朝を中心に、局所的なごみの散乱が生じている。

継続

地域と連携した観光マナー啓発

（「地域と連携した市民生活と観光の調和推進事業補助制度」の活用）

祇園町南側地区協議会による取組として、以下を実施。

- 私道における写真撮影や進入禁止を啓発する高札の設置：12/9(火)に4基設置（うち2基に本市の補助制度を活用）
- 京都女子大学、龍谷大学と連携し、地域住民による観光マナー啓発活動を実施（12/9(火)）
【今後も継続実施予定】



（高札）



（啓発活動で使用した啓発物）

これらのほか、京都市による取組として、「祇園町南側地区からのメッセージ」（令和5年12月）を踏まえて、引き続き、観光シーズンにマナー啓発員を配置

＜実施期間＞

9/30(火)～10/8(水)の平日
11/19(水)～12/12(金)の平日

対策の方向性

- 祇園地域特有の課題に対応するため、地域の声を丁寧に聞きながら、地域、事業者、行政が連携して、地域で守っていただきたい観光マナー等を分かりやすく周知・浸透させる取組を実施
- スマートごみ箱の収集頻度の増加等の対策強化を講じるとともに、祇園商店街によるごみ回収や清掃活動等の主体的な取組を伴走支援

新規

地域・事業者との3者連携によるごみ箱設置

（「地域と連携した市民生活と観光の調和推進事業補助制度」の活用）

いずれの店舗の商品から生じたごみでも捨てることができる祇園商店街共通のごみ箱を複数設置。本市が企画段階から伴走支援し実現

- 設置箇所：24店舗 + 八坂神社
- 設置時期：11/1(土)から
- 連携事業者：京都環境事業協同組合がごみ収集の全体調整を担い、協同組合の加入業者が収集を実施。



継続

地域主体の清掃活動

祇園商店街振興組合の有志で構成される「祇園青龍組」が主体となり、商店街以外の周辺の店舗や住民等も巻き込み、祇園を中心とした地域一帯の清掃活動を定期的に実施

本市職員も毎回参加のうえ、ごみ袋の給付や、ごみ収集等の支援を実施

- 実施時期：毎週水曜日（7時～8時頃）
- 参加者数：20～30名程度／回



【対策の評価等】

- 観光マナー啓発については、地域の方から啓発効果が高いとの声がある高札を新設するとともに、令和6年秋に実施した啓発キャンペーンを踏まえた啓発活動を実施するなど、**地域が主体となった対策を企画・実施することで、持続可能な活動につなげることができた。**
- 行政のみならず、地域、事業者と連携して散乱ごみ対策を進めた相乗効果により、スマートごみ箱が溢れることなく、特段のごみの散乱は見られなかった。**地域からも「以前よりも格段に綺麗。」「商店街のごみ箱が増え、観光客も喜んで利用されている。」といった声が聞かれた。**

- 国内外から多くの観光客・参拝客の来訪に伴い、稻荷新道における広がっての歩行、京阪・JRの踏切での混雑や、本町通におけるJR稻荷駅前、裏参道との交差点箇所において混雑する状況が生じている。
- また、観光客等によるごみのポイ捨てや踏切内での写真撮影などマナー違反も生じている。

対策の 方向性

- 顕著な混雑が生じている稻荷新道の踏切周辺や本町通において、安全対策や観光マナー啓発を実施
- 伏見稻荷周辺地域において持続可能な取組となるよう、伏見稻荷大社はもとより、地域団体、大学、公共交通機関等と連携した取組を実施

新規

近畿運輸局と連携したマナー啓発

観光庁作成の「観光ピクトグラム」を用いて、近畿運輸局、伏見稻荷周辺の住みよいまちづくり推進協議会、龍谷大学、京都市が連携し、実証調査を実施（実施期間：11/4(火)～12/15(月)）

- 啓発看板設置箇所等
<踏切安全対策>



京阪稻荷駅踏切周辺 2枚（2か所）



JR祓川踏切周辺 3枚（3か所）

- ごみ箱
<食べ歩き防止対策>



7基（7か所）

- 電柱幕
<歩行者安全対策>



15枚（10か所）

- ポケットティッシュ
<観光マナー啓発>



6,000個作成



龍谷大学（高畠ゼミ）と連携した効果検証（観光客向け・商店街事業者向けにアンケートを実施・分析）

- 観光客向けアンケート：回答数1,006件、観光ピクトグラムの理解度・観光客の行動変容について確認。観光ピクトグラムを見てマナー違反行為をやめるなど、一定の抑止効果が確認できた。観光客のマナー違反行為の多くは、悪意やコンプライアンスの欠如に起因せず、文化習慣の相違やマナー啓発方法の不十分さであると判明
- 商店街事業者向けアンケート：ごみ箱の設置事業者等を対象にアンケートを実施。ごみ箱設置によるポイ捨てごみの増減や観光客のマナーについて確認。周辺の散乱ごみの減少に一定寄与するも、地域全体としてはごみ箱の絶対数が不足していることなどを改めて認識。今後分析を深め、商店街の対策検討に活用予定

新規 龍谷大学と連携した観光客の分散化

伏見稻荷大社周辺から隣接する深草周辺地域への観光客誘導による分散化を目指すスタンプラリー等を実施。事前にワークショップを開催し地域住民と意見交換をしたうえで、地域として誘導に望ましいスポットを検討

- ・ワークショップ開催日：8/22(金)、27(水)、31(日)
- ・スタンプラリー実施日：9/27(土)、30(火)、10/1(水)
- ・参加者数：計11組26名
- ・スタンプラリースポット：事業者者やお寺、ホテル等計10か所



(スタンプラリースポット
龍谷大学深草町家キャンパス前)



(スタンプラリー台紙)

継続 伏見稻荷大社等による警備員・誘導員の配置

伏見稻荷大社、JR西日本、龍谷大学において伏見稻荷周辺に警備員等を配置



継続 地域と連携した対策

(「地域と連携した市民生活と観光の調和推進事業補助制度」の活用)

伏見稻荷周辺の住みよいまちづくり推進協議会において、観光客の歩行マナーの指導やポイ捨て禁止等の観光マナー啓発を兼ねた清掃活動を実施（各月週3回実施）



【対策の評価等】

- 観光庁作成のピクトグラムを活用し、稻荷新道の踏切周辺や本町通等に観光ピクトグラムの看板、電柱幕等を掲出。掲出に際して、地域団体、店舗、鉄道事業者、龍谷大学等と連携して取組を進めたことで、周辺店舗をはじめ多くの関係者から協力が得られた。行政だけの取組ではなく、地域一体となった対策となり、散乱ごみの減少や市民及び観光客の安心・安全に一定寄与したものと認識
- 伏見稻荷大社やJR西日本、龍谷大学が警備員を配置し、局所的に観光客が集中する箇所や踏切周辺等において直接的な啓発を行うことにより、円滑な人流の確保ができたとともに、本市補助制度を活用しながら行っている伏見稻荷周辺の住みよいまちづくり推進協議会における観光マナー啓発を兼ねた清掃活動により、地域の散乱ごみの緩和に一定寄与したものと認識
- 他方、踏切周辺を中心に、年間を通じて混雑が生じており、更なる対策が必要であると認識

4 令和7年「京都観光に関する市民意識調査」の結果

「令和7年京都観光に関する市民意識調査」の結果（R7.12.24報道発表）から、「令和7年秋の観光シーズンにおける観光課題対策」（R7.9.26報道発表）に記載したモニタリング指標等を更新

＜令和12年に向けて目指す値（案）＞（「京都観光・MICE振興計画2030」（仮称）に掲載）

項目	R5	R6	R7	目指す値(R12)
混雑やマナー違反に迷惑している市民の割合 ※	77.3%	80.1%	79.9%	0%
観光が重要な役割を果たしていると思う市民の割合	72.7%	70.6%	70.1%	75.0%

※ 「公共交通機関の混雑」「道路の混雑」「一部観光地の混雑」「観光客のマナー違反」のうちいずれか1項目以上で「大変迷惑している」又は「迷惑している」と回答した市民の割合（R6までは「迷惑した」かどうかを調査）

＜モニタリング指標＞

関連分野	項目	R5	R6	R7
分散化・周遊観光の推進	一部観光地の混雑を経験して迷惑している市民の割合 ※	66.4%	71.4%	70.6%
道路の混雑対策、京都駅一極集中の緩和	道路の渋滞に迷惑している市民の割合 ※	61.1%	60.3%	55.9%
市バスの混雑対策	公共交通機関の混雑を経験して迷惑している市民の割合 ※	62.4%	67.0%	63.8%
観光マナー啓発・散乱ごみ対策	観光客のマナー違反に迷惑している市民の割合 ※	47.7%	55.0%	56.3%
観光に対する共感の輪の拡大	京都市が観光で評価されることを誇りに思う市民の割合	64.9%	65.8%	65.2%
	市民による市内観光の頻度（半年に1回以上）	44.9%	44.3%	39.6%

※ R6までは「迷惑した」かどうかを調査